

インクル

第11号

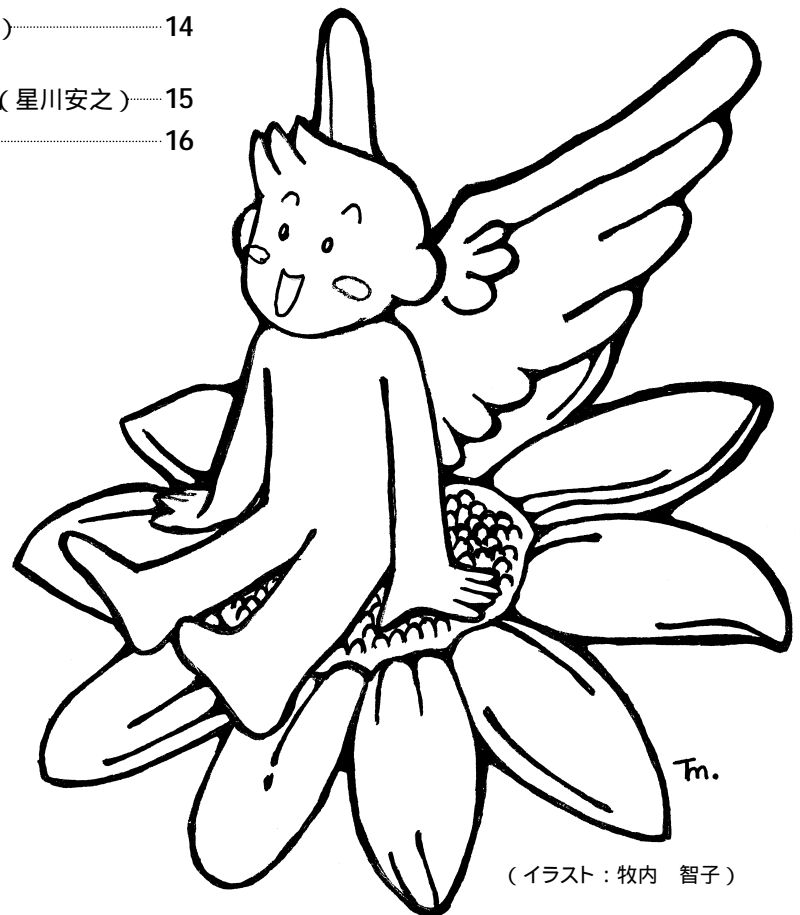
財団法人 共用品推進機構

〒101-0064
東京都千代田区猿樂町
2-5-4 OGAビル 8階

“Incl.” by The Kyoyo-Hin Foundation

目次 / Contents

- ・米国バリアフリー報告 共用品を支えるサービスとハート
第6回 ボランティアが育てる共生精神(草地美穂子)..... 2
- ・特集：最終段階迎える「ISOガイド71」
TMB第2回会議(米国・ワシントンDC)報告(星川安之)..... 4
中小企業のための東商シンポジウム・誌上再現..... 6
「先進地・関西」の取り組みを多数紹介、大阪でもシンポ開催..... 8
- ・キーワードで考える共用品講座
第11講 共用品はどこにある(後藤芳一)..... 9
- ・日韓フェスティバルで、共用品ブースを開設
初の海外展示、子供からお年寄りまで連日大盛況..... 10
- ・ニュース&トピックス
[新製品]日本ビクター、レナウン、テルモ、ソニー..... 12
[共用品推進機構]
『弱視の人に会おう本』、小学館から刊行(森川美和)..... 14
[事務局長だより] ADA法の米国で考えたこと、
「Kyoyo-Hinが世界を変える日」(星川安之)..... 15
- ・『インクル』からのお願い / 奥付..... 16



(イラスト：牧内 智子)



共用品を支えるサービスとハート

ボランティアが育てる共生精神

くさち みほこ (在サンフランシスコ、障害リハビリテーションカウンセラー)



かつて「人種の^{るっぽ}増埒」といわれたアメリカだが、今は「サラダボウル」などと表現される。大多数に少数がとけ込む（まされる）より、多種多様な人種・民族・利益集団が各々の個性を保ちつつ調和するほうが望ましいとの考えからだ。他集団との摩擦を最小限にし、理解と寛容を促進するのに大いに貢献しているボランティア活動について報告する。

昨年の師走半ば、大学も終わり、年の瀬をどう過ごそうかポーッとしていたら、電話がなった。前々回紹介したセントアンソニー財団から「年末年始特別ボランティアに急速参加してほしい」との要請だった。取材した縁で、財団の非常勤ボランティアに登録していたのだった。

学生・子供たちが重要な担い手 学校と連携、活動体験を教育に活かす

米国では11月最終木曜日の感謝祭からお正月までの約1カ月間、高齢者や障害者、そしてホームレスなどお金と身よりのない人たちのために、少しでも祝祭期の喜びを味わってもらおうと、至る所で贈品収集のキャンペーンが行われる。買い置きの日



セントアンソニー財団の食堂で配膳サービスに当たる学生、子供たちのボランティア活動参加者
(写真提供:セントアンソニー財団)

用品・保存食料品などが、学校・会社・教会・市民センターなどへ大量に集められる。次々と運ばれてくる寄贈品の集配・仕分け・包装といった業務に、普段の何倍ものボランティアが必要になる。冬休み中の学生や子供たちは格好の助っ人というわけだ。

私の最初の仕事は寄贈されたおもちゃの包装。クリスマスプレゼントとしてホームレスや低所得家庭の子供たちに配られる。たまたま、この日は10人ほどの中学生グループが来ていたので、一緒に仕事をした。作業開始前に20分ほど、職員のジュリーさんが財団の概要や使命、ボランティアの意義などを説明。ホームレスや障害者も一般の人とかわらない存在であることを強調する。

「みんなのおじいさん、おばあさんはどこが不自由かな？」

生徒たちが答える。「歩く時に杖がいるよ」

「耳がちょっと遠いかな。でも、耳元で大きな声でゆっくり話せば問題ないよ」

「ホームレスやアルコール・麻薬中毒、精神病に苦しんでいる人もそれと同じ。周りの人が必要な分だけ手助けすれば、私たちと同じように生活できる人たちのことよ」とジュリーさん。

説明の最後には、貧困・飢餓がなぜあるのか、人間らしい生活を保障する最低賃金とは、といった社会や人権に関わる問題を考えさせていた。

その後、実際のボランティア作業にとりかかる。グループは、おもちゃ包装班と階下にある食堂での配膳班の二手に分かれた。約2時間後、両班は元の部屋へ戻って作業の感想を報告。「食堂で前に座っていた人と話してみたら、なんだか家の隣のおじさんみたいだった」などと、ボランティア体験前はホームレスや障害者に対して否定的なイメージや恐怖心を抱いていた子も安心した様子だった。

とはいえ、財団側は若き奉仕団にいつもホームレ

米国ボランティアミニ情報

...筆者が卒業したカリフォルニア州立大学(一般の総合大学)には、一般教養科目の中に「障害者サービス概論」というのがある。講義目録には、「平等なアクセスは基本的的人権」「ユニバーサルデザインは皆に有益」「平等なアクセスを促進するためにあなたにできることは？」などと記されている。

...サンフランシスコにはボランティアセンターという非営利機関があり、年間1万人以上のボランティア希望者に1600業務(約900機関)を斡旋している。職種(例:法律関係)、技能(例:通訳)、援助対象人口(例:障害者)などの分類ごとにたくさんのファイルがあり、それぞれの人に最適な仕事を探してくれる。障害者の就職前訓練としてもボランティア活動はよく利用されるため、同センターには障害者ボランティア専門部もある。



同センターと契約している保険会社の職員によるボランティア活動の例。サクラメント市の児童虐待被害児のケア施設の外壁のペンキ塗りに取り組むボランティアたち
(写真提供:ベス・ケニーキさん)

スたちとの交流を求めているわけではない。「ボランティア活動の基本はまず気持ちよく働いてもらうこと。気のりしない時はいつでも作業をやめてもらうように言っています」とジュリーさん。もっとも、実際にはそうならないよう、職員は学校側と、どのような作業内容にするか、どういうことを話すかを事前に打ち合わせてある。学校のほうでも、ボランティア体験が生徒に有意義なものになるよう、事前、事後調査をさせるところが多い。

【 外国からの旅行者も飛び入り参加 参加うながす多彩な援助プログラム 】

数日後、私は古着の仕分けと食事配膳のボランティアをした。他の参加者は、フィリピン人移民の家族、ユダヤ人家族協会のメンバー、足の不自由な障害者、元ホームレス、親子連れ、カトリック神父など、休憩時間の話題探しには困らない多彩な顔ぶれ。

なかでも、ヨーロッパからの旅行者が2人いたのが印象深かった。オランダのリズさんは「自分でお金を払って好きな時に海外旅行できる自分は幸せ。いくらかでもお返しできれば」と、大晦日の食堂勤務に飛び入り参加した。また、裕福な白人知識層が多く住む北郊のマリン郡から来た男性は「家の近所だけで生活していると、ホームレスや障害のある人たちの抱える問題に無関心な大人になってしまう」と、娘さんと一緒に古着の仕分けをしていた。

セ財団は設立当初、ホームレスや障害者に対して最低限度の生活を保障する衣食住と医療サービスの提供をしていたが、彼らが継続して安定生活を営むには一般社会の理解・協力が不可欠として、12年前に社会教育ボランティアプログラムを発足させた。老人ホーム訪問、子供向けイベントのリーダー、アートクラスの教師、パーティー会場の飾り付け、トラック運転手など、ボランティアの多様な適性と生活時間に合わせた職種を多数用意している。

勤務は、全日、半日、夜間、休日、週1回、月1回、非常勤など、各人ができる範囲で決めてよい。忙しくて直接ボランティア活動ができない人たちにも間接援助の方法をアドバイスする。例えば、企業の経営者は自分の会社へ財団職員を招いて貧困・飢餓について講義してもらい、従業員の啓発に一役買うことができる。財団機関誌の発行、メディア取材の積極的受け付け、政府や政治家への働きかけも、飢餓や貧困の問題を社会全体で解決していくのに欠かせない重要な任務だ。

2週間の短い季節ボランティアだったが、貧困・飢餓・偏見・差別といった問題を解決するのに、必ずしも膨大な予算や政策が必要なわけではないことを学んだ。元日に食事を配った時、中国人のホームレスのおじいさんから日本語で「ありがとう」と言われ、思わず「チン・ツァイ・ライ(また来てくださいね)」と返事していた。

特集
1

最終段階迎える「ISOガイド71」

IEC加盟各国の投票を経て、年内にも発効へ

TMB第2回会議(米国・ワシントンDC)報告

ほしかわ やすゆき
星川 安之(共用品推進機構専務理事兼事務局長)

高齢者・障害者に配慮した製品・サービス・環境の国際的な統一規格作りを進めている国際標準化機構(ISO)のテクニカル・マネジメント・ボード(TMB)の第2回会議が1月16~18日の3日間、米国ワシントンDCで開かれた。会議では、今後、加盟各国の規格機関による国内規格作りのベースとして活用されるガイド71「高齢者・障害者配慮ガイドライン」の最終案が示され、一部修正作業を行うことを条件に合意され、今夏までに国際電気標準会議(IEC)加盟各国の投票を行い、年内にも発効される運びとなった。

グループ(WG)の第1回会議が1998年10月に東京で開催された。菊地真^{まこと}・防衛医科大学教授を議長に迎え、このWGで実施する事項についての検討。その結果、ここで作成するのは、「政策宣言(ポリシーステートメント)」と、それに伴う「ガイド」の2つとなった。

それ以降、スイス・ジュネーブ(99年2月)、米国メリーランド州(99年5月)、カナダ・トロント(99年10月)と会議を重ね、まず、上記の2つの文書のうち、「政策宣言」が2000年1月のISO理事会において承認された。それと共に、次のガイドを作成するために、委員会自体をより専門性の高いTMBに移し、そこに新たにテクニカル・アドバイザー・グループ(TAG)を設置し、さらに多くの専門家を加えていくことになった。

同年6月にTAG第1回会議がスイス・ジュネーブで開催された。新たに南アフリカからの委員を加え、事務局も本来のISO本部に移り、本格的な検討が再開された。日本からは共用品の事例を持参し、出席委員の共感を得た。CEN / CENELEC(欧州の規格

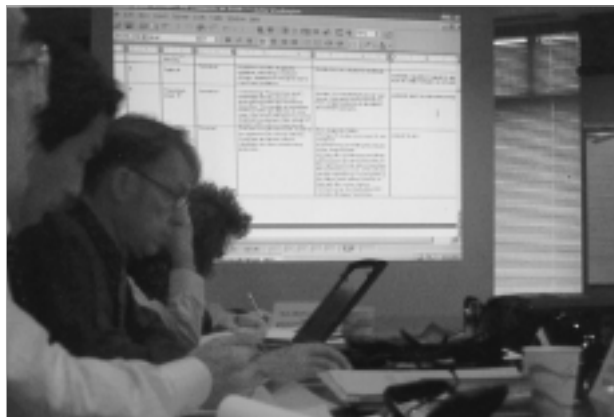
日本の提案で98年に検討開始 まず「政策宣言」を承認

まず、これまでの歩みを簡単におさらいしておこう。高齢者・障害者に配慮した製品・サービス・環境に関する国際標準作りを目指すISOの検討作業は日本の提案によってスタート。消費者政策委員会(COPOLCO)内に新たに設けられたワーキンググ

■ ISOによる共用品・共用サービスの国際標準作りの動き

1998年 5月	第20回ISO / COPOLCO(消費者政策委員会 総会(チュニジア・チュニス))において日本の提案によって「高齢者・障害者ワーキンググループ(WG)」の設置を決議
1998年10月	高齢者・障害者WG第1回会議開催(東京)
1999年 2月	WG第2回会議開催(スイス・ジュネーブ)
1999年 5月	第21回ISO / COPOLCO総会(アメリカ・メリーランド州) WG第3回会議を同時開催
1999年10月	WG第4回会議開催(カナダ・トロント)
2000年 1月	ISO理事会において「政策宣言」を承認。同時に、次のステップとなるガイド71「高齢者・障害者配慮ガイドライン」案作りのため、WGの場をCOPOLCOからTMB(テクニカル・マネジメント・ボード)に移し、新たにTAG(テクニカル・アドバイザー・グループ)を設置して、引き続き検討することを決定
2000年 6月	TMB / adhocTAG第1回会議開催(スイス・ジュネーブ)「ガイド71」案がほぼ固まる
2001年 1月	TMB / adhocTAG第2回会議開催(アメリカ・ワシントンDC)

TMB 第2回会議が行われたワシントンDCのAARP(全米退職者協会)ビル内の会場(撮影:星川安之)



作成機関)は、「このガイドができたらすぐに自分たちの規格にも取り入れる」と宣言。こうして、ガイド71案は完成し、同年8月、ISO加盟国およびIECの安全関係委員会に配布、投票が行われた。4カ月の投票期間を終え、英国からの提案付き反対以外は提案付きを含め賛成であった。

【 日本からの具体例の提案も採択 8月に第3回会議、最終まとめへ 】

その結果を基に今年1月にワシントンDCにおいて開催されたのが、今回の第2回adhocTAG会議。英国の反対は、文章表現ならびに全体の構成に関する反対であり、根本的なものではなかった。今回の会議では、賛成票と共に届いた各国からの意見を委員会で検討し、ラフのまとめを行った。

日本からの20ほどの具体例の提案も、ほぼ4分の3が採用された。特に「人的サービスを入れる」という日本提案に対しては多くの時間が費やされた結果、賛同が得られた。また、日本で進んでいる具体的な事例の紹介も、『共用品白書2000』の英語版を資料として掲載、日本の各工業会・業界団体で行ってきた先進的取り組みが、ISOのガイドに載る予定である。

英国は、今回ラフにまとめたものを国内で2カ月かけ、整理しなおすことを提案した。スウェーデン、カナダのメンバーがそれに関わるという条件付きで合意となった。ガイド71は当初、順調にいけば今年春にも発表される予定であったが、IECで当初予定されていた投票が諸事情により実施されなかった

め、再度交渉し、英国の作業が終了した時点で投票にかけることになった。

今年8月に第3回のadhocTAG会議を開き、その投票結果をまとめる予定である。順調にいけば、年末までには、このガイド71「高齢者・障害者配慮ガイドライン」が完成し、発表される運びである。ガイド71は1つひとつの細かな製品の規格ではない。あらゆる規格を作る、または改定を行う時に、高齢者や障害者にも使えるような製品・サービス・環境が作れるような規格を作るためのガイドである。

【 知恵を世界中でシェアする体制作り 「途上国への情報提供」は日本の責務 】

本来、製品・サービス・環境とは、万人に使用できるもの、使用できるべきものである。ただ、現実にはコスト、時間、手間などの阻害要因が多く、あるべき姿とは必ずしも一致しているとはいえない。今後その内容を100%完成させることは非現実的かもしれないが、ISOが目指すべきテーマに、環境と共に大きな意味を持つ「人権」が加わることはとても意義深く、望ましいことである。

ガイド71が完成された暁には、日本においてもそのままの形で迎えられることが望ましい。そして、このガイドを参考に、すでに日本にあるさまざまな「共用品・共用サービス」の規格を、各業界団体を通じて、ISOの各TC(テクニカル・コミッティ)に提案し、国際基準に持ち上げていくことが必要である。

すでに、多くの規格・規準を日本は保有しており、それらの情報を提供することによって、多くの国々が刺激を受け、世界からまた多くの知恵が集まる。そこで大切なことは、いい知恵はすぐに国際的にシェア(共有)できる体制を引き続きISO内に保持することと思う。

日本にはもう1つ大きな課題がある。それは、発展途上国への情報提供である。現在ISOは、いわゆる先進国のメンバーを中心に討議がされているが、特に今回の議題などは発展途上国こそ議論に参加してほしいと願う。当面参加が困難なのであれば他の形で伝え、共に発展したいと願うばかりである。

特集
2

最終段階迎える「ISOガイド71」

高齢者マーケット開拓の有効なツール

中小企業のための東商シンポジウム 誌上再現

ISOによるガイド71作りが最終局面を迎えたことを受けて、共用品推進機構、東京商工会議所、(特)生活・福祉環境づくり21の3者共催による「中小企業のための新ISO《ガイド71》シンポジウム～高齢者・障害者に配慮した製品・サービス・環境の国際規格～」が2月13日、東京・丸の内東京商工会議所4階東商ホールで開かれた。

ISO会議の議長を務めている菊地 眞きくち まこと・防衛医科大学校教授が「高齢者・障害者配慮のモノづくりと国際標準化」と題して基調講演。続いて、大熊由紀子おおくま ゆきこ・朝日新聞論説委員をコーディネーターに、菊地氏おかくら しんじ・岡倉伸治おかくら しんじ・経済産業省医療・福祉機器産業室長、奥山康夫おくやま やすお・オリエンタルランド常務取締役、富山幹太郎とみやま かんたろう・トミー代表取締役社長の5氏によるパネルディスカッション「超高齢社会に喜ばれるモノとサービス開発の極意～企業・行政・消費者の立場から～」が行われた。ほぼ満員の約520人が参加した同シンポの様相を誌上再現しよう。(文と写真・高嶋健夫たかしま たけお)

【基調講演】

新たな「国際デジュール」の誕生

菊地 眞・防衛医大教授

現在ISOで進められているガイド71「高齢者・障害者配慮ガイドライン」は、日本にとって大変大きな意義を持つ。わけても重要なのは、日本の今後の世界貿易戦略の一端を担っている点である。

人口の高齢化、とりわけ元気な高齢者の増加による構造変化によって、高齢者をターゲットとする分野の市場規模は急成長している。「自分のために(後半生を)生きよう」という明確な意識を持ったこれら元気高齢者は、新しいメジャーな消費者層を形成し、好みの多様化を引き起こしている。

実際に、戦後、リハビリテーション機器から発展してきた福祉機器・同用具の市場規模は約1兆2000億円に成長。一方、誰にとっても使いやすい共用品の市場規模は約1兆4000億円で、両者を合わせると2兆5000億円を超える。これは航空宇宙産業(1兆5000億円)、医療機器(1兆4000億円)を上回り、すでに巨大産業が誕生していると言える。

一方、海外に目を向けると、中国やインドなどアジア諸国では、日本を上回る速度で人口の高齢化と

消費構造の多様化が進んでいる。

こうした中で検討されているISOガイド71は、いわば「日本主導によるモノづくりのための新たなデジュール」にほかならない。デジュールとは、すなわち、企業各社が取り組むべき基盤のルールであり、「こうあるべき」という姿を示した共通ルールである点で、デファクトスタンダードとは一線を画す。ちなみに、品質管理のISO9000、環境のISO14000シリーズは、欧米主導によるデジュールと言える。

ビデオ規格の例(ベータとVHS)に代表されるように、日本はデファクトスタンダードを取ったケースは過去にいくつもあるが、デジュールを率先して示した例は極めて少ないのが実情である。それだけに、今回のガイド71は、これからの世界的な人口高齢化による市場構造の変化に向けて、日本がさまざまな面でリーダーシップを取っていく可能性を開いた点で大変意義深い。

1月のワシントン会議で最終ドラフトができたガイド71は今秋にも発効され、早速、欧州の情報通信規格などに採用されるほか、わが国では日本工業規格(JIS)に直ちに採用されることになる。

戦後、日本はデミング博士の提唱するTQC(全社的品質管理)運動に世界各国に率先して取り組み、

基調講演を行う菊地眞氏



コーディネーターの大熊由紀子氏(左)とパネリストの富山幹太郎氏(右)



パネリストの奥山康夫氏(左) 菊地眞氏(中央) 岡倉伸治氏(右)



この分野のデジュールを国家を挙げて実践してきた。これと同様、今後は日本生まれの「共用品・共用サービス」の定着・発展を目指して、国家を挙げて取り組んでいくことが求められている。

【パネルディスカッション】
**共用品・共用サービスは
 「日本流ホスピタリティー」の極致**

大熊由紀子・朝日新聞論説委員
 富山幹太郎・トミー社長
 奥山 康夫・オリエンタルランド常務
 岡倉 伸治・経済産業省医療・福祉機器産業室長
 菊地 眞 ・防衛医大教授

大熊 まずは「わが社の極意」から話してほしい。
富山 1980年に創業社長の遺志を受け継いで「ハンディキャップ研究室」を立ち上げ、障害のある子供たちが遊べるおもちゃの開発に着手した。その後、紆余曲折を経て、今日では障害のある子供も、そうでない子供も共に遊べる「共遊玩具」として日本玩具協会で統一したガイドラインを設け、盲導犬やうさぎのマークによって消費者に訴求している。1社から業界へ、さらに業種横断的に取り組みが発展してきたのは嬉しい限りだ。「社会との共栄共存」が共通課題の21世紀には、ちょっとした配慮のある共用品こそが求められていると確信している。
大熊 ディズニーランドでは「障害者割引」はあえてしていないと聞いて感心した。
奥山 ディズニーランドは1983年に開業し、すでに2億6000万人のゲストを迎えている。障害者割引をしないのは、「すべてのゲストがVIP」であり、誰にも同じように楽しんでもらえるサービスを提供したいからだ。当初は米国の設計によるスロープ化などで対応していたが、90年に視覚障害者の方々

を対象にした体験調査を実施した頃から、徐々に独自の取り組みを始めた。声のインフォメーション・ガイドブック、高さを違えた水飲み場や公衆電話、手触りでわかる触知図など、パークのテーマとの統一性やデザイン性などに配慮しながら整備を進めてきた。3D用字幕スコープ、手話のできるキャストが付ける「手話ピン」などは日本オリジナルで、今秋オープンするディズニーシーでも新しい音声ガイドシステムなどを導入する予定だ。

大熊 経済産業省でも積極的に共用品・共用サービスを後押ししているようだが。

岡倉 70年代半ば以降、最初は技術開発研究から着手し、標準化、データベース作り、情報提供など産業界と連携しながら福祉分野の産業育成に努めている。今後は、よりサービスの視点を重視し、ハード+ソフトの総合的な発展を推進していきたいと考えている。共用品については、99年度の市場規模は2兆円に近づく模様で、新しい価値の創造という点で国際的な広がりもあり、企業、消費者の双方により積極的に理解と普及を働きかけていきたい。

大熊 ガイド71は企業にとって、どの程度の拘束力を持つものなのか。今後、14000シリーズのように認証制度に発展するのか。

菊地 ISOはあくまでも自主規格であり、ガイド71もその限りでは企業活動を拘束するわけではない。認証制度についても、当面は予定されていない。むしろ、自ら調べなくても、新しい商品開発の手がかりが簡単に入手できると考えたらいいだろう。

大熊 共用品・共用サービスを示すマーク制度を作る計画はあるか。

岡倉 確かに、SGマークやエコグッズのように、すぐにわかる方法があったらよいかなあとは思って

「先進地・関西」の取り組みを多数紹介

大阪でもISOガイド71シンポを開催

大阪でも2月20日に大阪市・南港なんこうのATCイベントホールで、共用品推進機構、ATCエイジレスセンター、大阪商工会議所の3者共催による同名のシンポジウムが開催された。菊地眞氏による基調講演の後、大熊由紀子氏をコーディネーターに、東京と同じ岡倉伸治氏、菊地氏に加え、ニッポン・アクティブライフ・プラン代表の高畑敬一たかばたけいいち氏、コクヨ高齢者事業推進室長の西尾裕之にしお ひろゆき氏、阪急電鉄取締役鉄道事業本部長の角和夫すみ かずお氏をパネリストに迎え、熱心な討議が展開された。

この中で、小さな力で使えるホッチキス、片手でも出し入れしやすいクリアファイル、びんオープナーなどのユニバーサルデザイン(UD)商品展開を担当するコクヨの西尾氏は、「今後は『元気な高齢者』という表現はやめ

ようと社内で言っている。わざわざ『元気な』と付けるのは、一般の高齢者は『元気でない』という社会的認識があるから」と発言。

震災復興した伊丹駅いたみの全面バリアフリー化、シルバーシートの撤廃(全席シルバーシート化)など、阪急電鉄でバリアフリー推進に当たっている角氏は、大きな意味でのバリアフリー対策として、私鉄共通フリーパスの先駆けである「すろっと関西」を紹介。同時に、「交通バリアフリー法は歓迎する半面、費用の面で難しい部分も現実的にはある」などと指摘した。

高畑氏は、ボランティア活動をすると、その時間に応じてポイントがもらえ、そのポイントは将来、自分が介護など必要になった時に使える仕組みで知られ、50歳以上の人9000人が会員となっているNPO組織のリーダー。松下電器産業出身で、共用品・UD開発に関わった経験もあり、「会員のボランティアは介護に留まらず、高齢者にも使いやすい商品のモニタリングなども行っている」と語った。

いる。ただ、マーク制度が本当によいかどうかも含めて、いろいろな角度から検討しているところだ。

大熊 共用品の普及を妨げている要因があるとすれば、それは何か。

菊地 企業に負担増を強いるといった誤解があったり、流通の整備が遅れているなどの課題がある。また、バリアフリー、共用品、ユニバーサルデザイン(UD)など言葉の乱立も問題だが、フィードバック的なバリアフリー、フィードフォワード的なUDに対して、川下の現場から実践的に始まった共用品は両者を包括するより幅広い概念だと考える。

「さりげなく、自然に」をモットーに

大熊 最後に一言ずつ、お願いしたい。

岡倉 共用品は環境と同じように、できるだけ多くの方々に知ってもらわなければならない考え方。今後、教育の分野でも、あるいは海外に対しても広く啓発していきたいと考えている。

菊地 ガイド71は世界に冠たる「ジャパニーズ・ホスピタリティ」が生み出した新コンセプト。21世紀の日本を救う基本コンセプトになるだろう。

奥山 楽しさを基本に、「さりげなく、自然に」を

モットーに取り組んできた。今では新しい施設には必ず共用品的な視点が入っている。東京ディズニーリゾートを、この分野の先端情報を世界に発信していく前線基地に育てていきたい。

富山 社会が激変する中で、企業経営もパラダイム転換を迫られている。「先送りしない、逃げない」姿勢で、自ら答えを探し、外に向かって発信していく勇気を持ちたいと考えている。

大熊 北欧の事情を探ると、日本の「寝たきり老人」問題は、すなわち「寝かせきり」の問題であることがわかる。共用品には、北欧流のテクニカルエイドにも共通する「楽しさ」があるように思う。今後の発展を大いに期待したい。



ホール横の別室に設けられた共用品の展示コーナーは、休憩時間には来場者でごった返した

「共用品はここにある」

ごとう よしかず
後藤 芳一（個人賛助会員、日本福祉大学兼任講師）

共用品 や共用サービスの普及が進み、身近で見られる場所が増えている。（小さい添え字

は、同様の用語が『インクル』第1～10号の本欄に既出であることを示す）

1. 公的機関や展示場

「ATCエイジレスセンター」（大阪市）は国内最大（5000㎡）の常設展示場で、福祉用具 や健康機器とともに豊富に展示されている。共遊玩具、食事用品などの企画展示もある。「滋賀県立福祉用具センター」（草津市）には自助具 関係の展示がある。「(福)日本点字図書館」（東京都新宿区）は、視覚障害関係用品を中心に展示販売している。

2. 公共空間

交通関係の施設では、「阪急電鉄伊丹駅」（兵庫県伊丹市）や「小倉駅周辺」（北九州市）、「神戸港中突堤中央ターミナル」（神戸市）などで、動線、機械設備、トイレ、サインをはじめ、総合的なバリアフリー対応 が進んでいる。

「触地図」では「さいたま新都心」（浦和・大宮・与野市）のサイン が音声などと組み合わせて充実している。「営団地下鉄大手町駅」（東京都千代田区）、「京都市営地下鉄烏丸線」（京都市）、「東京ディズニーランド」（浦安市）などがある。

鉄道駅構内では、「営団地下鉄南北線」や「都営地下鉄三田線」などに「ホーム自動ドア」が設けられている。「京浜急行電鉄羽田駅」（東京都大田区）や「多摩モノレール駅」には、ホームと車両の「段差解消板」が設けられている。

3. 交通機関

自動車では「ノンステップバス（各地） や同じ仕様で高齢者・障害者と健常者を輸送する「ユニバーサルタクシー」（横浜・静岡・神戸・長崎各市）の普及が進んでおり、「イーグルバス」（埼玉県川越市）は車内のアンテナで補聴器を支援するバスを運行している。

鉄道では、「新型路面電車（LRT）」（広島・熊本各市）の導入が進んでいるほか、「JR西日本介護型新幹線」（福岡市）はヘルパー資格を持つ車掌と駅員が支援する。

4. メーカー関連

福祉車両 は、日産自動車は「カレスト座間」（神奈川県座間市）、トヨタ自動車は「トヨタアムラックス東京」（東京都豊島区）に豊富にそろろう。「東和モーターズ販売多摩店」（東京都八王子市）は各社の福祉車両の中古車を専門に集めている。

生活用品では、「コクヨごきげん生活館」（東大阪市）が日用品や文具、「ワールドパイオニア」（東京都中野区）が聴覚関連、「大活字」（同千代田区）が視覚関連の共用品を中心にそろえている。

5. 流通関連

百貨店は「松屋銀座ユニバーサルスクエア」（東京都中央区）が共用品に焦点をあてているほか、「高島屋（新宿店、横浜店）」（同新宿区、横浜市）、「日本橋三越」（東京都中央区）、「東武池袋店」（同豊島区）、「伊勢丹立川店」（立川市）などがある。

スーパーは「イトーヨーカ堂」（各地）が共用文具を中心にコーナーを設け、「ダイエー福岡マリナシティ店」（福岡市）などは「電動立ち乗りカート」を用意している。介護ショップは「松下電工エイジフリー新丸子」（川崎市）などに、介護用品関連の共用品がある。DIYは「東急ハンズ池袋店」（東京都豊島区）などに、各種の便利な用品が多い。

6. その他

限られた期間ながら国内外で共用品を展示する機会（展示会への出展など）がある。日程や場所は、共用品推進機構ホームページなどでご確認下さい。

（本稿の記述に当たっては、独自に取材したもののほか、『インクル』、『季刊ユニバーサルデザイン』（ジー・バイ・ケイ）、『月刊WE LL』（アテックインターナショナル）の記事を参考にした。）

日韓フェスティバルで、共用品ブースを開設

初の海外展示、子供からお年寄りまで連日大盛況

2月16～25日に韓国・ソウル市の韓国総合貿易展示場で開催された「日韓フェスティバル」で共用品推進機構による共用品の専用ブースが設けられ、連日、子供たちから学生、高齢者まで熱心な韓国市民でにぎわいを見せた。海外での共用品の本格的な展示はこれが初めてだが、共用品推進機構から現地に飛んだ吉村政昭よしむら まさあき（運営委員兼企画委員）、橋本英和はしもと ひでかず（事務局）両氏によると、韓国でも共用品の評判は上々で、今後の普及に道を開く確かな手応えが感じられたという。（高嶋健夫、写真は橋本英和）

日韓フェスティバルは、2002年のワールドカップ・サッカー共同開催に向けた交流促進事業の一環として、日本貿易振興協会（ジェトロ）主催、経済産業省、韓国産業資源部の後援で開催された展示会で、産業・技術・文化・物産・観光まで日本の現状を広く韓国市民に紹介するのが目的。

会場はソウル市の韓国総合貿易展示場・太平洋館（約1万㎡）。共用品のブースは5×10mのブースで、昨年9月の国際福祉機器展の共用品ブースのざっと2倍の広さ。共用品推進機構ではジェトロの要請を

共用品ブースを担当した4人のコンパニオン。右上は会場入り口風景。



受け、日本の共用品約80点を現地に持ち込んだ。同時に、共用品・共用サービスの考え方、障害者や高齢者の不便さなどを紹介するハンゲルの展示パネルを新たに作成、ブース内に掲げた。

共用品コーナーには4人のコンパニオンがつき、交代で来場者に1つひとつの共用品の配慮点や使い方などの説明に当たった。開会前に通訳を交えて共用品についてレクチャーした橋本氏によると、4人ともプロだけに、理解が早く、すぐにポイントをつかむと来場者に対しても笑顔と巧みな話術でわかりやすく説明していたという。

共用品ブース担当の通訳を務め、日本側と当地ス



共用品ブースの全景。橋本氏がレイアウト設計した口の字型のブースは通路もゆったり。





ドラえもんがお出迎えして連日大盛況(左上下)、コンパニオンの当意即妙の説明も好評だった(中央)、会場で見つけた車いす用ボタン(右下)と会場内のインフォメーション端末も兼ねている公衆電話(右上)

タッフとの橋渡し役として奮闘してくれたのはキムさんという日本語を勉強している学生さん。まだ来日されたことはないそうだが、日本語力の高さと熱心な仕事ぶりで共用品ブースをもり立ててくれた。そんなキムさんから、閉幕前に帰国した橋本氏に宛てて、次のような嬉しいメールが届いた。

こんにちは。メールがおくれてすみません。(中略)
会場にはいつもおおくのひとで大騒ぎです。きょうようひんの展示も人気を浴びています。1日に200名以上の方がきたんです。はんのうもとてもす

ごいです。ちいさな配慮がすごいで、感動したおばさんがおおいです。

興味を持った人たちもきてまいにち質問いっぱい学生たちもとしよりのひとたちも説明を聞きながらなるほどっていったんです。こどもたちにはドラえもんがいちばんにんきもの。しょうひんをみたいひとと輸入したがるひともおおいです。

きのうはくるまいすにのっているひとがきてらくに見物した、ありがとうって。わたしもうれしかったんです。わたしにもたいせつな経験になってもっとうれしいです。(後略)



日本国内の展示会で使用したものをそのまま翻訳したハングルの展示パネル。展示品はもちろん直接手に触れられるようにした。

● ニュース&トピックス

新製品

高齢者にも聞きやすく、使いやすいラジオ

日本ビクター、23年ぶりの新製品を発売

日本ビクターは高齢者向けに聞きやすさと使いやすさを追求した新型ポータブルラジオを発売した。同社としては23年ぶりに発売するラジオの新製品。高齢者の意見に応じて、カセットやMD、予約機能など余計な機能をあえて取り除く一方、高齢者にも聞きやすい音質を再現する新型スピーカーの開発、見やすい表示文字と操作感の確かなスイッチ類の採用など、きめ細かな配慮設計を実現させている。

発売したのはFM / AM2バンドの「RA-H5」(希望価格9300円)と、TV / FM / AM3バンドの「RA-H7」(同1万500円) = 写真 = の2タイプ。

最大の売り物は、一般に高音域が聞きづらくなると言われる高齢者の使用を考慮して、クラフトバルブと綿素材をブレンドした新しい振動板素材を開発したこと。これにより、ゆがみが少なく、フラットで柔らかな音を得られるため、高齢者でも音がくっきり聞こえ、長時間聞いていても疲れにくいという。

操作性については、高齢者や視覚障害者でも使いやすいように機能を絞り込むと同時に、大型の操作ボタンの採用をはじめ、さま



ざまな工夫を施している。表示文字には、本誌の題字にも使用している「やまもとあきバリアフリー書体」(山本明彦・百合子氏《個人賛助会員》考案)を採用。目盛板の上部には、聞きたい放送局を選局しやすいように手触りでわかる浮き彫りのガイドも付いている。デザインはシンプルでコンパクトさを追求。ボディーカラーは白木の木目調インテリアを意識した淡い色彩を採用し、3バンド型には室内に合わせて選べる交換用のスピーカーネット(黒)も付いている。

問い合わせ先:日本ビクター(株)お客様ご相談センター(TEL:03-5684-9311)

レナウン、「STYZE」ショップを本格展開

ユニバーサルファッションの新ブランド専門店

レナウンはユニバーサルファッションの新ブランドである「STYZE(スタイズ)」の本格的なショップ展開を始めた。いずれも大手百貨店内にコーナー展開するもので、現在までに4店舗がオープン。さらに秋冬物発売時までには数店舗の開設を計画、初年度7億円の販売を目指す。

STYZEショップを開設したのは、伊勢丹立川店(6階ハートフルステーション、1月24日オープン)、高島屋横浜店(4階婦人服売り場、2月22日)、同京都店(3階婦人服売り場、3月1日)、同日本橋店(3階婦人服売り場、3月7日)の4店。

STYZEは、昨春発表した同社のオリジナルブランド商品。「スタイズ」とは、スタイルとサイズを

組み合わせた造語。20~30歳代の若い人の体型に合わせた従来パターンの「ミス体型」のほか、「ふくよか体型」、細身の「加齢体型」の3つの体型を同時展開しているのが最大の特色で、若い世代から、「娘と同じデザイン、色柄の服を着たい」という高感度の団塊世代まで幅広い層の需要に対応するユニバーサルファッション商品。ジャケット、ボトム、シャツ・ブラウス、ドレスまでフルラインで展開。価格帯はジャケットで3万3000~4万9000円、ボトム類で9900~1万9000円、春物コートが2万9000~3万9000円などとなっている。

問い合わせ先:
 (株)レナウン広報室(TEL:03-3407-8112)

● ニュース&トピックス

新製品

検温終了を「メリーさんの羊」でお知らせ

テルモ、大型液晶の「メロディ音体温計」を発売

テルモは、高齢者や障害者にも使いやすいように配慮した電子体温計の新製品、「メロディ音体温計」(テルモ電子体温計C250) = 写真 = を発売した。これまで一般的だった電子ブザー音ではなく、音域が広くて高齢者にも聞きやすいメロディー音で検温終了を知らせるほか、液晶の文字表示も同社の従来製品の約3.7倍に拡大、読みやすく改良している。

この体温計は脇の下で計るタイプで、検温時間は約90秒。従来のブザー音では聞き取りにくかった高齢者や聴覚障害者にも配慮し、音域が広く、大き

な音量のメロディー音を採用した。液晶表示も大型化し、40ポイント前後の大きな数字で検温結果を表示する。

希望小売価格は3300円。全国の薬局、家電量販店を中心に、初年度で約55万本の販売を目指す。

問い合わせ先：

テルモ(株)お客様相談室(TEL:03-3374-8178)

「デザインの美しさ」が売り物の新型ビデオ

ソニー、お知らせビープ音など共用設計も継承

ソニーは、S字型の独特のフォルムを前面パネルに施した新型VHSハイファイビデオデッキ「Silv(シルブ)LF1」 = 写真 = を3月20日に発売する。ビデオデッキが成熟商品となり、高機能化競争が限界に達する中で、「デザインの美しさ」を付加価値として前面に押し出しているのが特徴だ。20～30歳代の高感度の若い世代を意識した新コンセプト製品だが、お知らせビープ音、背面端子の凹凸など、高齢者や視覚障害者にも使いやすいと好評を博したR300シリーズ以来の共用設計も継承している。

「Silv」は、ラックの外に置いてインテリアになるような存在感とデザイン性の高さを追求した。S字



型の前面パネルはアルミを採用して高級感を演出すると同時に、できるだけシンプルなデザインにするため、本体には電源、エジェクトなど6種の基本操作ボタンしか付けていない。

一方、定評のあるユニバーサルデザイン設計では、配線を助ける背面端子の凹凸表示を継承。ビープ音については、電源のオン・オフ時や録画開始時点を知らせる機能のほか、カセットが入っていない状態で録画を始めようとしたり、予約がいっぱいの状態でさらに予約しようとしたりすると、ビープ音が鳴って知らせてくれる機能も搭載している。

録画予約については、チャンネルや時間などを10キーで自由に入力することはできないが、リモコンの10キーによるGコード予約と、テレビ画面を見ながらの予約の2通りの方法が利用できる。

価格はオープン価格で、発売元のソニーマーケティングでは当面、月間5000台の販売を目指している。

問い合わせ先：ソニーマーケティング(株)お客様ご相談センター(TEL:0570-00-3311)

『弱視の人に出会う本』、小学館から刊行

弱視者の日常の不便さを知り、共に生きることを考える

今まであまり注目されてこなかった「弱視」について、大人だけでなく未来を担う子供たちにも知ってもらいたいと企画した『見えにくいってどんなこと? 弱視の人に出会う本』(財)共用品推進機構編、本体1200円)が小学館から刊行された。本書の基となったのは、2000年2月に共用品推進機構が発行した『弱視者不便さ調査報告書』。小学館のバリアフリーブックシリーズとしては、耳の不自由な人の生活を知る本『音』を見たことありますか?』、体の不自由な人の生活を知る本『ドラえもん車いすの本』に続くものだ。

本書は2部構成で、第1部はまんが「弱視のおばあちゃんまちを行く」。原作は、(福)日本点字図書館用具事業課の杉山雅章すぎやま まさあきさんが執筆した。共用品推進機構・東京会議の視覚情報障害班班長として、前述の報告書の取りまとめに当たった責任者であり、弱視者の実態と現状をよく知る専門家でもある。

まんがを描いてくださった西東栄一さいとう えいいちさんは、知る人ぞ知る、一世を風靡したキャラクター「キョンシー」の作者。西東さんは弱視の人と接するのは初めてのことだったが、コミュニケーションを取りながら1つひとつのしぐさや動きをリアルにコミカルに描いた。「全く取り組んだことのない分野だったが、一度は挑戦してみたかったので嬉しかった」と話している。

第2部は「見えないってどんなこと?」と題して、杉山さんやおなじみの芳賀優子はが ゆうこさんらが弱視の人の不便さの実際や日常生活に役立つ便利グッズなどについて詳しく紹介している。

「弱視」と一口に言っても、見え方は人によってさまざま。外見ではわかりづらいので、「よく見えている人」と思われがちである。そのために「挨拶してもらえない」「見えているのにぶつかってくる」などと勘違いされ、辛い思いをすることもあるそうだ。

あなたは、まちの中で白い杖をついた人に出会ったことがありますか? たぶん、「ある」と答えるでしょう。

あなたは、「手話」を使って話している人に出会ったこと、あるいはテレビなどで見たことがありますか? きっと、「ある」と答えるでしょう。



ではもう一つ、「弱視」って知っていますか?

「弱視」聞きなれない言葉です。

「弱視者」一体どんな人のことをいうのでしょうか?

この本では、皆さんの知らない「弱視」の人とはどんな人のことをいうのか、そしてどんなことに困っているのかを、弱視のおばあちゃん「カネ」さんが教えてくれます。

皆さんが生活している社会の中には、いろいろな人がいます。だれもがみんなそれぞれに、一生懸命にやっても「できないこと」があるように、目の不自由な人も、耳の不自由な人も、車いすを使う人も...そして「弱視」の人も、一生懸命にやってもできないことがあります。

その「できないこと」を、みんなが知らないまましていると、いつまでも「できないまま」です。

でも、「できないこと」が分かれば、どうすればできるようになるか、その「方法」を見出すことができます。

私たち一人一人がお互いのことを考え、接する中で、「できるようになる方法」は生まれるのです。

「できない」ことを「できる」ようにする力は、だれもがみんな持っています。この本で弱視の人のことを知って、今できることを考えてみて下さい。

(『弱視の人に出会う本』カバー見返しより)

私たちが一歩外に出ると、そこには自分と違ったたくさんの人たちがいる。目の不自由な人、耳の不自由な人、車いすの人もいれば、おじいさんやおばあさん、重い荷物を抱えた人、妊婦さん 等々。それぞれの人が、自分の行きたいところに行き、会いたい人に会い、毎日の生活を生き生きと暮らしたいと考えている。

1人でも多くの方々や子供たちが、本書を通じて自分のできることを発見し、実行するきっかけになってもらえればと願っている。
(森川 美和)

ADA法の米国で考えたこと 「Kyoyo-Hinが世界を変える日」

..... 1月16～18日の3日間、米国ワシントンDCで行われた国際標準化機構（ISO）ガイド71「規格作成における高齢者・障害者ニーズへの配慮ガイドライン」の会議に出席した。詳細は今号特集で報告しているが、日本でまとめた提案の約8割に合意が得られた。

このガイドは、あらゆる規格を障害者・高齢者にも使いやすくするよう「エキス」を注入するもので、配慮すべき共通項を示している。議論が進む中で「具体例」を知らせることが必要との意見が多く出されたため、共用品推進機構が昨年自主出版した『共用品白書2000』の英訳版を紹介。参加各国より興味を持たれ、このガイドの最終章「資料編」で『Kyoyo-Hin White paper2000』として掲載される可能性が高くなった。

日本生まれの様々な創意工夫
シャンプー容器のギザギザ、プライベートカードの切り欠き、ビール缶などの点字表示、各種家電製品、盲導

犬・うさぎマーク付きの共遊玩具、自動販売機、エレベーター等々が各国で諸規格を作る際の参考になる。喜ばしい限りである。

..... 会議が終わった18日は、ブッシュ新大統領の就任式前日。ホテルでテレビを見てみると、前夜祭のパーティーの様子が字幕付きで、要約筆記のようなスピードで流れていた。華やかな就任前夜祭を聴覚障害者も十分に楽しめる。

宿泊したホテル、ISO会議の会場となったビル、近くのショッピングセンターのどこでも、エレベーターの操作パネルの数字には必ず点字表示と浮き彫り表示が付いていた。また、エレベーターは1階上下するごとに、止まっても止まらなくとも、1回ずつ合図音が鳴り、視覚障害者でも、今自分がどの階にいるか知ることができる。歩道と車道は、見た限りにおいては、すべてスロープになっており、車いす使用者が他人に頼らずに移動できる。

..... ADA(障害のあるアメリカ国民法)の主旨が、目に見える形で、一時滞在者にもわかるように示され

ていることは素晴らしいと思う。だが、実態はまだまだ試行錯誤が続いている段階で、不徹底な部分も多いとも感じた。例えば、歩道。車道と歩道は見事にスロープ化されているが、車道から上がった歩道の上は「ガタガタ」なところも少なくなかった。

確かに、ADA法によって画期的に変わった点はたくさんある。こうした法律を制定したことには素直に敬意を表したい。が、問題は日本人の欧米に対する評価である。欧米をお手本に近代化を進めてきた歴史的背景からか、客観性を欠いた欧米礼賛が目立ち、「欧米は良く、日本は悪い(遅れている)」的なことを悪気もなく言う人がいる。

一昨年5月、米国で同じISO会議が行われた時、ソニーの盛田昭夫もりた あきお名誉会長が亡くなった。米国のメディアは「メイド・イン・ジャパンの意味を変えた日本人、モリタ氏が亡くなった」と報じていたという。「共用品が世界を変えた」といつの日か.....と願いたい。

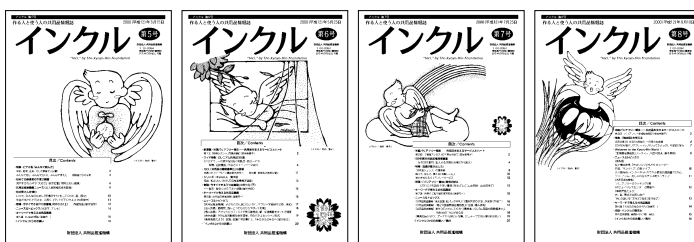
()

『インクル』バックナンバーのご案内

ご購入希望の方は、事務局までお申し込みください。



創刊号 1999年7月
 第2号 1999年9月
 第3号 1999年11月
 第4号 2000年1月



第5号 2000年3月
 第6号 2000年5月
 第7号 2000年7月
 第8号 2000年9月



第9号 2000年11月
 第10号 2001年1月

『インクル』は共用品推進機構の機関誌です！

共用品情報誌『インクル』は隔月刊で発行し、個人・法人賛助会員の皆様に郵送でお届けしています。共用品推進機構では引き続き、個人・法人賛助会員を募集しています。年会費は、個人が1人1万2000円、法人が1口20万円。入会申し込み・お問い合わせは、下記の事務局までお願いいたします。

『インクル』は共用品の専門情報誌です！

新製品・サービスの発売、新技術の開発、展示会やイベントの開催、常設展示場の開設—共用品・共用サービスに関するニュースの提供をお待ちしています。リリース、資料などは事務局『インクル』編集部まで。また、広告の出稿もお待ちしています。『インクル』の読者は共用品・共用サービスの普及を担うオピニオン・リーダーです。出広媒体としても積極的にご活用ください。広告料金表は事務局にご用意していますので、お問い合わせください。

『インクル』は消費者と企業をつなぐ架け橋です！

個人の寄稿・投稿も大歓迎。「バリアフリーサービスの素敵なお店」「心のバリアフリー体験談」「海外ユニバーサルデザイン事情」などなど、個人賛助会員の皆様、法人賛助会員の読者の方々からのご意見を、お手紙、FAX、電子メールで、事務局『インクル』編集部までお寄せください。

作る人と使う人の共用品情報誌

インクル 第11号

2001(平成13)年3月15日発行
 "Incl." vol.3 no.11

©The Kyoyo-Hin Foundation, 2001

隔月刊、奇数月に発行

一般頒価 1部1000円

(但し、個人・法人賛助会員については、購読料は年会費の中に含まれています)

視覚障害のある方など、墨字版がご利用できない方にはTXTファイルのフロッピーディスクを提供しています。必要のある方は、事務局までお申し出ください。

編集・発行 (財)共用品推進機構

郵便番号 101-0064

東京都千代田区猿樂町2-5-4 OGAビル8F

電話：03-5280-0020

ファクス：03-5280-2373

Eメール：jimukyoku@kyoyohin.org

ホームページURL：http://kyoyohin.org/

発行人 鴨志田厚子

事務局 星川 安之

森川 美和

橋本 英和

編集長 高嶋 健夫

執筆・協力 草地美穂子

(五十音順) 小塚 通宏

後藤 芳一

高橋 玲子

牧内 智子

山本 明彦

吉村 政明

制作 日経BPクリエイティブ

印刷・製本 光写真印刷(株)

本誌の全部または一部を視覚障害者やこのままの形では利用できない方々のために、非営利の目的で点訳、音訳、拡大複写することを承認いたします。その場合は、(財)共用品推進機構までご連絡ください。

上記以外の目的で、無断で複写複製することは著作権者の権利侵害になります。